

# 平泉町総合戦略を 策定します

町では、1～2月号広報でお知らせした人口ビジョン(案)を実現するため、総合戦略(案)を策定しています。

総合戦略(案)では、5つの基本目標を設定し、各目標に6～18の具体的な施策を設け、さらにそれぞれに目標値を定め、人口減少を抑制していきます。

◎問い合わせ先：総務企画課 ☎46-5578

## 総合戦略の策定趣旨

平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法」が公布・施行され、これを受け、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」(以下「国の長期ビジョン」という。)および「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(以下「国の総合戦略」という。)が26年12月27日に閣議決定されました。

地方公共団体においても、国の長期ビジョンと国の総合戦略を勘案しつつ、人口の現状と将来の展望を提示する「地方人口ビジョン」の策定と、今後5か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた「地方版総合戦略」の策定が求められています。

平泉町総合戦略(以下「総合戦略」という。)は、国の総合戦略の基本的な考え方を基に、本町における人口減少・少子高齢化に対応し、「しごと」と「ひと」の好循環による「まち」の創生を通じて、将来にわたり活力ある持続可能な地域社会の維持を図るため策定します。

## 基本的な考え方

### ■総合戦略の計画期間

平成27年度から31年度までの5年間とします。

### ■策定にあたっての基本方針

- ① 国の総合戦略および岩手県ふるさと振興総合戦略(県の総合戦略)を勘案するとともに、新平泉町総合計画との整合性を重視します。
- ② 人口ビジョンやビッグデータから明らかとなった各種の客観的データのほか、各種アンケート調査などから明らかとなった町民の考えや希望に基づき、本町の特性や課題を把握したうえで、地域資源の最大限の活用を図ります。
- ③ ①、②を踏まえ、本町の実情

に依りて、一定の政策分野ごとに5年後の基本目標を設定します。その際、実現すべき成果に係る数値目標を併せて設けます。

④ 基本目標の実現に向け、講ずべき施策に係る基本的方向と具体的施策を記載し、各施策の効果を客観的に検証できる指標を設定します。

## 基本的な視点

総合戦略の策定にあたっては、平泉町人口ビジョンを踏まえ、次の2つの視点から取り組みます。

【視点1】生活環境の向上による定住促進

- 【基本目標1】若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 【基本目標2】安心して暮らしを守るとともに地域と地域を連携する
- 【基本目標3】安定した雇用を創出する
- 【基本目標4】新しいひとの流れをつくる
- 【基本目標5】世界遺産を活かしたまちづくりを進める

【視点2】世界遺産を活かした地域の活性化

- ① 生活環境の向上による定住促進  
若者の県内他都市や首都圏への転出超過の状況などを踏まえ、本町に住み、働き、安心して子育てしながら楽しく生活できる環境を整え、そうした希望を持つ若者が移住・定住するようなまちづくりを目指します。
- ② 世界遺産を活かした地域の活性化  
世界遺産登録によるインパクトを最大限活かして、より多くの国内外の人々を平泉に迎えおもてなしを行い、交流を活発化

## 総合戦略の基本目標

### ①若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

深刻な少子化が進行する中、若者が異性と出会い、結婚し、子どもを持ちたいと思う人々の希望をかなえるとともに、子どもを安心して産み育てることができる環境の整備が必要です。

そのため、未婚者に対する出会い・結婚・出産の支援の充実を図りながら、未来を担う子どもたちがすくすくと元氣よく育つよう、地域が一体となった子育て環境の充実に努めます。

現状値 (25年度)	1.95	目標値 (31年度)	1.70
---------------	------	---------------	------

※ 近年における実績値の年度による変動幅の大きさを勘案し、過去10年間の平均値1.66を基準に設定。

### ②安心なくらしを守るとともに、周辺地域との連携を図る

全ての世代の町民が安心して暮らすことができるよう、防災体制を構築するとともに、町民や来訪者の安全安心な移動のための道路空間の整備や、生活の



町で普及している「いきいき百歳体操」

利便性を高めるよう行政情報の発信力を強化します。

また、町民の健康を守るため、医療体制を充実するほか、食育の推進や高齢者の生活支援などにより、町民の健康づくりに努めます。

さらに、町民の豊かな生活を広げていくために、地域活動への参加を促進するとともに、必要となる関連施設の整備を推進します。

### 【指標】平均寿命

現状値 (25年度)	男性 78.2歳 女性 85.5歳	目標値 (31年度)	男性 78.7歳 女性 86.0歳
---------------	----------------------	---------------	----------------------

### ③安定した雇用を創出する

地域の基幹産業である農林業について、担い手の育成を図り

ながら新しい6次産業化への取り組みを積極的に推進して特産品の開発やブランド化、販路開拓を推進し、産業としての高度化を図ります。

企業の経営体質を強化しながら新たな企業誘致を進め、町民所得の向上と雇用の確保を図ります。

町民生活の利便性を高めるよう、町内の商業拠点を整備するとともに、特産品の開発・活用により地域の商業力の底上げを図ります。

町内の卒業生が地元で就職できるような雇用機会を確保するとともに、女性や高齢者、障がい者などの雇用を積極的に推進していきます。

### 【指標】町内製造業事業所の従業者数

現状値 (25年度)	383人	目標値 (31年度)	500人
---------------	------	---------------	------

### ④新しいひとの流れをつくる

地元出身の町外居住者のUターンや、町内への居住を希望する人々の受け皿となるよう、多様な世帯のニーズに合うような居住環境整備を推進するとともに、移住に関する相談・各種支援体制を強化します。

また、地域の特性を活かしてさまざまな資源を活用した観光・交流機能の拡充に努めるとともに、交通機能の充実や国際化への対応、拠点となる道の駅の整備を推進します。

### 【指標】町人口の転出抑制数

現状値 (25年度)	△19人	目標値 (31年度)	△31人
---------------	------	---------------	------

※ 合計特殊出生率同様、年度による変動幅の大きさを勘案し、過去10年間の平均値△39人を基準に設定。

### 【指標】町内観光客入込数

現状値 (25年度)	200万人	目標値 (31年度)	220万人
---------------	-------	---------------	-------

### ⑤世界遺産を活かしたまちづくりを進める

地域の最大の資源である「世界遺産平泉」を活かした地域づくりを推進するために、浄土思想をキーにした地域ストーリーづくりを進め、それを目的としたツーリズムを誘発することで、その経済効果を町内のあらゆる地域や産業に波及させます。また、世界遺産をテーマにした新しい観光メニューやサービスを整え、それらをマネジメントする体制を整えます。

### 【指標】教育旅行などによる入込数

現状値 (25年度)	39,015人	目標値 (31年度)	50,000人
---------------	---------	---------------	---------



教育旅行で田植え体験をする子どもたち